# ふっさ 広報

七夕まつりキャラクター
「たっけー☆☆」
FUSSA

平成20年(2008年)
**7月1日　No. 762**

発行/福生市　編集/企画財政部秘書広報課
〒197-8501 福生市本町5
☎042-551-1511（市役所代表）
毎月1日・15日発行

ホームページ http://www.city.fussa.tokyo.jp/


**今号の主な記事**


4面国民健康保険税納税通知書の送付　5面福生市基本構想審議会委員募集　6面雨水浸透ます設置工事費の助成
7面郷土資料室企画展示「平和のための戦争資料展」　8面生ごみ処理機器補助制度のお知らせ


## 平成20年第2回 福生市議会定例会における所信

本会議で所信を述べる加藤市長

5月21日に就任した加藤市長が、福生市議会定例会初日、6月3日の本会議で所信を述べましたので、その内容を市民の皆さんにお知らせします。

問合せ企画調整課企画調整担当

### 市政運営にあたって

平成20年第2回市議会定例会に当たりまして、貴重なお時間をいただき、私の所信を申し述べさせていただきますことを心から感謝申し上げる次第でございます。

先般の福生市長選挙におきまして、多くの市民の皆様の御支持をいただき、今後4年間、市政を担当させていただくことになりました。

誠に身の引き締まる思いとともに、その責任の重大さを痛感いたしているところでございます。

福生市は、町の時代から、その後の市制施行後も歴代の市長をはじめ、議員各位のたゆまぬ御尽力と市民の皆様の御協力のもとに着々とまちづくりが進展して参りました。

地方分権一括法が施行され、本格的に地方分権時代が始まった平成12年に誕生した野澤市政は、市民主権による自立したまちづくりを目指し、2期8年間にわたり一貫して「福生市のことは市民とともに福生市独自で考える」、「後世の市民のために、負担を残さない持続可能なまちを創る」ということを基本的な考えに据え、市民との協働によるまちづくり、そして堅実な行財政運営を進めてこられました。

このたびの選挙におきまして、野澤前市長から後継者として指名をいただいた私が市民の皆様から御支持を頂いたということは、同時に野澤市政への評価の表れであり、引き続き野澤前市長が築かれた市民主権のまちづくりを継続し、更に発展するよう、私に託された市民の声であると信じております。

まだまだ未熟ではございますが、受け継いだ襷（たすき）の重みと責任を強く認識し、私の全力を傾注（けいちゅう）して市政運営に当たる所存でございますので、議員並びに市民の皆様の特段の御指導、御協力を賜りますよう、切にお願い申し上げる次第でございます。

### まちづくりの考え方

さて、歴代の市長、議員各位そして市民の皆さんが共に築いてこられた福生のまちづくりでございますが、今までの礎（いしずえ）をもとに、さらに私が目指すこれからのまちづくりにつきまして、その一端を申し述べさせていただきます。

御案内のとおり地方分権にかかる国の動きは、昨年4月に地方分権改革推進委員会を設置し、「地方が主役の国づくり」を地方分権改革推進の基本的な考え方に据え、目指すべき五つの方向性を定めました。即ち、一つ目は「分権型社会への転換」、二つ目に「地方の活力を高め、強い地方を創出」、三つ目に「地方の税財政基盤の確立」、四つ目に「簡素で効率的な筋肉質の行財政システム」、そして五つ目が「自己決定・自己責任・受益と負担の明確化により地方を主役に」であります。

そして、昨年11月には同委員会により「中間的な取りまとめ」が発表され、第一次勧告も5月末に示されたところでございます。国は同委員会の勧告を踏まえ、平成21年度中には、講ずべき必要な法制上または財政上の措置等を定めた「地方分権改革推進計画」を策定することとしております。いよいよ地方分権改革も第2ステージに入ってきたと強く感じるところでございます。

今申し上げました地方分権改革推進委員会の目指すべき五つの方向性は、時代の要請であると同時に、私が目指すまちづくりである「誰もが住んでよかった、住みたくなる夢のある街福生」の実現に、基本的に合致するものであります。

そして、そのまちづくり実現のためにこれから申し上げます「五つの元気」を、行政運営の柱に据え、市政を着実に進めて参る所存でございます。

### 行政運営の柱としての五つの元気について

**◆子育てが元気**

一つ目が「子育てが元気」であります。

すべての子どもたちが心身ともに健やかに成長し、安心して子育てできる環境が整うことは、少子化が進む現在の社会の中で、保護者のみならず社会全体の願いでもあると私は思っております。出産や育児について、

2面へ続く

●市役所は8月9日(土)は七夕まつり期間中のため閉庁します。問合せ企画調整課企画調整担当

### 広報ふっさ紙面にＳＰコードを本格導入しました

目の不自由な方の情報ツールとして開発された二次元シンボル「ＳＰコード」(下図参照)を、広報ふっさ5月1日号の紙面より本格的に導入しました。ＳＰコードは縦横18㎜の大きさに、日本語で約800文字の文字データを納めることができ、専用読取装置を使うことで、コードに記録されている文字情報を音声で聞くことができます。

毎月1日号の1・3・5・7面の記事をそれぞれ抜粋してコード化し、触って位置がわかるように半円状の切り込みを入れます。

問合せ秘書広報課広報広聴係

## 全力投球

福生市長 加藤育男
環境フェスティバルにて

### 地域活動と自信

月日が過ぎるのは早いもので、光陰（こういん）矢の如（ごと）しであります。

昔、織田信長が桶狭間で今川義元の軍を攻撃する前に自身で踊ったといわれる、能の敦盛（あつもり）の一説に、「人間五十年下天（げてん）のうちを比ぶれば夢幻（ゆめまぼろし）の如くなり」とあります。私も五十年どころか、その半ばまできておりますが、今でも自分の趣味は何か、また何に自信があるのか、芸や技術が身についているかと振り返ると何も見当たりません。「少年老い易く学成り難（がた）し」の典型であります。

市長に就任して一か月余り、文化協会やボランティア団体、町会の各種団体等、地域コミュニティで頑張っておられる方々とお会いする機会に恵まれました。皆さん、自信にあふれ輝いて見えました。

私もいずれ、地域の中で生活する一市民となる訳ですから、この地域で活躍されている方々をお手本として、何か自分が癒（いや）される中で、社会に貢献できる活動に参加していきたいと考えております。